

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2024年4月18日
第4号

コミュニケーション 自分から積極的に 佐藤作(2-2)



左から佐藤くん、ホストファミリーのノアちゃんと筋トレ仲間。

サウバーリントン 短期語学研修報告②



瀧上萌友さんのホストファミリー宅でパーティー。たき火でマシュマロを焼いたり、ウノをした。



ホストファミリーのジェイス君。最後に泣いてお別れするほど仲良しになった。

中国系のジミーくんがホームパーティを開いてくれた。



沢山の友人とラインやインスタでつながっている。

畠山佳貴さんのホストファミリー宅でのパーティー。



佐藤作くんはホストのノアくんがパーティーやスポーツジムなど色々な所に連れて行ってくれて、そこで友人を作ることが



できたという。弟のジェイス君はとてもなついてくれて、紙風船のお土産でよく遊んだ。今回の短期留学では、コミュニケーションを取るために自分から積極的にいくことが大切だと実感した。友人も多くできて、帰国後もラインやインスタでつながっている。英語のリスニング力は上がったが、アウトプットはまだこれからのので、今後ブラッシュアップしたいと考えている。

アメリカで見て感じた 人の優しさ 授業の違い 2-3 大塚翔太

最初は風土や文化の違いを見て感じ、段々と体験して感じ取ることができた。視野が広がる一番の衝

困った時は周りに頼ることの大切さも知った。スカベンジャー・ハントでは街の人に聞く場面が何度もあった。こわがらずに、失敗を恐れずにチャレンジすることが大切だ。税関、荷物検査、入国審査は不安だと思いが、堂々と対応しぐり抜けるといい。

撃は「将来教師になりたい」と言ったとき、「日本で海外で？」と聞かれ、海外の選択肢は考えていなかった。「それもあるか」と視野が広がったことだ。

自由で対話型の授業 日本と米国の授業の違いも印象に残った。米国の授業は自由度が高い。「読書」の時間にはそれぞれが選んだノンフィクションを読み、感想を書いていた。「科学」ではそれぞれが異なる実験をしていた。一方的な講義型の授業はない。知識注入型ではなく、先生と生徒のコミュニケーションが重視されていた。生徒が活発に意見を述べているのが新鮮だった。授業中にふらつと教室を出て行く生徒もいたが、おとがめなしだった。

アメリカ人の印象変わった 生活の中で互いに翻訳ツールを沢山使いコミュニケーションを取った。日本にいた時は、アメリカ人に対し、冷たい印象があったが、実際ホームステイしてみても、優しく付き合ってくれて感謝している。僕のアメリカ人観は変化した。

夕食はカフェテリアが混み合わないように昼休みの時間をずらす工夫をしていた。



大学の塔の先端にはビーバーがいた。



シャンプレーン大学



ベイグルショップではバッファローチキンが美味だった。